

2-8

演題	LIFE 導入後の効果と課題について
副題	

LIFE
課題

法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会
施設名	特別養護老人ホーム 湘南ホーム

発表者名 (職種)	杉 輝夫 その他
共同発表者	谷本 茜
共同発表者	藤崎 直子
共同発表者	五木田 剛
共同発表者	石井 恵一朗

都道府県	神奈川県
住所	横須賀市太田和5丁目500番地
TEL	046-856-3220
FAX	046-856-9442
メールアドレス	shonan-home@net.email.ne.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	当施設は、1987年、横須賀市に開設した。特別養護老人ホーム、ショートステイ、通所介護、居宅介護支援センターを運営している。通所介護は定員25名の通常規模型で、8時間のサービスを提供している。2022年7月からLIFEのデータ提出を開始した。
---------------------------	---

研究の目的、PRポイント

- 目的
 - 科学的介護情報システム(LIFE)に提出している自施設のデータとフィードバック票のデータを比較し自施設の利用者の概要を客観的に把握するとともに、サービス方針を決定することとした。
 - LIFEから得られるデータを活用し、科学的介護の取組を検証することとした。
- PRポイント
 - LIFEを活用して科学的介護の取組について検証した。

取り組んだ課題

LIFEに毎月返却される暫定のフィードバック票(暫定版)には、全国の数字が表示されているだけで活用が困難であった。そのため施設内で運動機能、認知機能等の計測を行い、問題点の把握、サービスプログラムの立案を行った。事業所フィードバック票(事業所版)の公表後は、全国の利用者の変化等を確認できるようになった。しかし暫定版と事業所版では、データ数もデータの内容にも違いがあり、それぞれの活用方法は異なると考えられた。

具体的な取り組み

- 研究Ⅰ
提出したデータと暫定版を比較し、LIFEの利用状況について確認した。また年齢、バーセルインデックスの点数(BI score)、要介護度について全国と比較し、自施設の対象者の概要を客観的に捉え、サービス方針を決定した。
- 研究Ⅱ
LIFEから得られる情報だけでは具体的なサービスプログラムを立案することが困難であった。そのため別途行っていた計測より、問題点の把握、プログラムの立案を行った。BI score、要介護度、障害高齢者の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度、認知症行動障害尺度の変化を、開始時(pre)と8か月経過後(post)とで統計学的に検証した。

活動の成果と評価

- 研究Ⅰ
 - 成果：提出できていたデータは利用者情報、科学

的介護推進情報のみであった。既往歴情報に記載されていた利用者は35%のみであった。その要因として、スタッフからは情報収集が困難、下位分類ができなかった等が挙げられた。自施設の利用者は90歳以上の割合が高く、BI scoreが高値で介護レベルの低い利用者が多かった。そのため、サービス方針は動作能力の維持と重度化の予防とした。

- 評価：自施設で入手できる情報だけでは、十分なデータ提出が困難なことが判明した。医療サイドからの情報が不十分、LIFEから求められているデータの質と得られる情報の質のギャップが大きいことが原因と考えられた。全国とのデータの比較することで、根拠を持ってサービス方針を決定することができた。

○研究Ⅱ

- 成果：preにおける運動機能等の計測より、利用者のほとんどで身体的プレフレイル、サルコペニア疑いを認めた。そこで、筋力増強トレーニングを中心としたプログラムを導入した。preとpostの両方で運動機能等を計測できた15名を対象にBI score、要介護度等の変化を統計学的に検証したところ、すべての項目で有意差を認めなかった。
- 評価：8か月後の利用者の動作能力、介護度は維持されていた。PDCAサイクルのPlanを充実させるためには、LIFEを利用するだけでは不十分と考えられた。一方で事業者版には、効果判定の指標や基準といった有益な情報が含まれていた。CheckとAssessmentの部分においては、LIFEを活用することが科学的介護の推進につながると考えられた。

今後の課題

施設レベルのサービス方針の決定と効果判定に対する一手法を提示している。個人レベルへの対応について、別途検討が必要である。

参考資料など

- 厚生労働省、ケアの質の向上に向けた科学的介護情報システム(LIFE)利活用の手引き、2022
- Chen LK, Woo J, et al. Asian Working Group for Sarcopenia: 2019 Consensus Update on Sarcopenia Diagnosis and Treatment. J Am Med Dir Assoc. 2020; 21: 300-307